

The background of the slide is a reproduction of Leonardo da Vinci's 'The Last Supper'. It shows Jesus and his twelve apostles seated at a long table in a room with a grid-patterned ceiling and several windows. The figures are engaged in various gestures of conversation and contemplation.

西洋美術史ゼミ

第15回

象徴主義・応用美術

発表者 あまずん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。



ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



前回の内容

- 19世紀後半では列強体制が緩み、**国家統一**を目指す多くの戦争や紛争が起こった。
- 1880年代になると**第二次産業革命**などの影響や**植民地の再評価**を理由として**帝国主義**が席卷したが、その舞台はアジアやアフリカであったため**大衆文化が成熟**した。
- リアリズムを受け継ぐマネを先駆けにして、前衛である**印象派**が台頭した。印象派絵画の大きな特徴は**光や動き**を表現することに重きを置いた。



モネ 《睡蓮》

本日の内容

世界史について

- 帝国主義の影響など

美術について

- ポスト印象主義
- 象徴主義
- 19世紀の彫刻（ロダン）
- 応用美術

全体の概略

- 世界史では、**イギリスとドイツの対立**が深まり、第一次世界大戦の準備が進んでいきます。
- 美術史では大きく**ポスト印象主義、象徴主義、応用美術（デザイン）**を扱います。ポスト印象主義の画家は印象派の問題であったあいまいな形態や精神性の無さをそれぞれの手法で克服しようとし、また象徴主義は物質主義への懐疑から深い精神性を暗示するような絵画を描きました。さらにこの時代、万国博覧会をきっかけにして工業製品の造形性が注目を集め、応用美術（デザイン）が花開きました。
- 今回も重たくて申し訳ないんですが、次回から世界大戦とその美術を扱いたいという都合があるためご容赦ください……。

本日の内容

- **世界史：世界分割と列強の対立**
- 美術史：ポスト印象主義
- 美術史：ラファエル前派と唯美主義
- 美術史：象徴主義
- 美術史：彫刻の革新
- 美術史：応用美術とアール・ヌーヴォー

世界分割と列強対立: CONTENTS

- ① 概略
- ② 列強のアフリカ分割
- ③ 列強の太平洋分割/ラテンアメリカ進出
- ④ 列強の二極分化

列強のアフリカ分割

- 19世紀半ばに探検によって**アフリカ**内陸部の資源が豊富であることが明らかになり、列強はこの地域に関心を示すようになった。そして、その大部分を分割して植民地にした。
- これに対し現地の人々は地域の自立や文化を守ろうとして抵抗したが、こうした抵抗運動はやがて**民族主義運動**や**民族解放運動**に成長し、20世紀の歴史を形成する大きな流れになる。



アフリカ縦断政策をとるローズとロドス島の巨像をかけた当時の風刺画

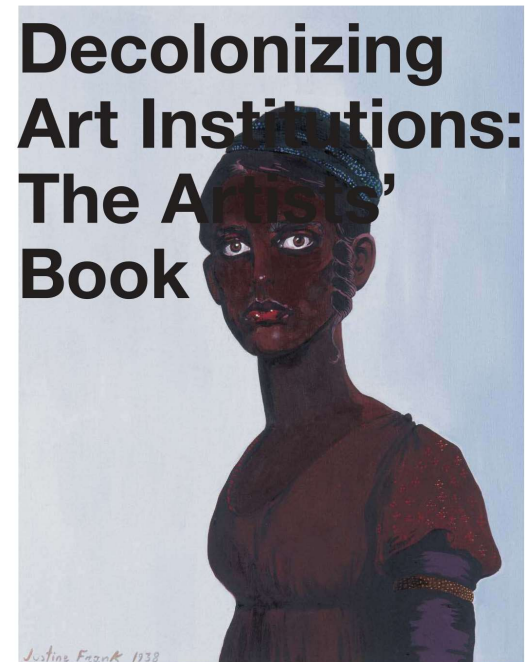
列強の太平洋分割/ラテンアメリカ進出

- **太平洋地域**についても欧米諸国が進出し、オーストラリアや東南アジア諸国が領有された。
- 多くの**ラテンアメリカ諸国**は19世紀前半に独立したが、民族構成が複雑で貧富の差も大きく政情が不安定な国が多かった。このため、アメリカやイギリスの進出に対し**経済的に従属した**。

ONCURATING

Issue 34 / December 2017
Notes on Curating
www.oncurating.org

**Decolonizing
Art Institutions:
The A
Book**



ONCURATING Issue 34

列強の二極分化:ドイツ

- 1890年**ドイツ**は対外行動の自由を広げるため、ビスマルク体制下で結んだ**ロシアとの再保障条約を見送った**。これに反発しロシアはフランスに接近し、**露仏同盟**を結んだ。これによりフランスは外交的孤立を脱することとなる。



露仏同盟を報じたフランスの雑誌

列強の二極分化：イギリスと周辺諸国

- **イギリス**は長い間どの国とも同盟を結ばない「**栄光ある孤立**」の立場をとったが、ドイツの挑戦にそなえて日本と**日英同盟**を結び、またフランス、ロシアと**三国協商**を成立させドイツ包囲網を形成した。
- **イタリア**は三国同盟の一員であったが、「未回収のイタリア」をめぐってオーストリアと対立しフランスに接近した。そして、ドイツは唯一の同盟国である**オーストリア**と結びつきを強めていく。
- こうして諸列強は、イギリスとドイツをそれぞれの中心とする二つの陣営にわかれ、1910年以降軍備拡大を競い合った。

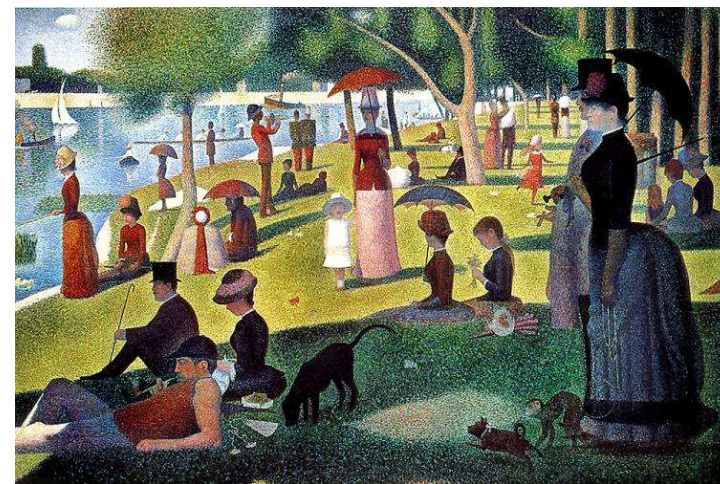
ドイツ・オーストリア
VS
イギリス・フランス・ロシア

本日の内容

- 世界史：世界分割と列強の対立
- **美術史：新印象派・ポスト印象主義**
- 美術史：ラファエル前派と唯美主義
- 美術史：象徴主義
- 美術史：彫刻の革新
- 美術史：応用美術とアール・ヌーヴォー

ポスト印象主義

- 印象派の筆触分割は対象を固有物から解放したが、同時に輪郭を奪い**形態や空間**をあいまいにした。また、彼らのモチーフは主に都市の風景や風俗であり、**思想や精神性**への関心は薄かった。
- この問題に取り組んだのが**ポスト印象主義**の画家で、**スーラ、シニャック、セザンヌ、ゴーギャン、ゴッホ**が代表的である。



スーラ 《グランド・ジャット島の日曜日の午後》

ポール・セザンヌ(1)

- 初期は印象派のグループの一員として活動していた**セザンヌ**だったが、1880年代からグループを離れ、独自の表現を開拓した。
- 彼は自然とは一瞬の変化ではなく**不変のもの**だと考え、物の形や空間の本質を理解し、理論的に**構築された絵画**を作りたいと考えた。
- そうして生まれた**幾何学的構図**や**規則的なストローク**、**異なる視点から見た画面の統合**はキュビズムをはじめ以後の美術に多大な影響を与えた。



セザンヌ 《リンゴとオレンジのある静物》

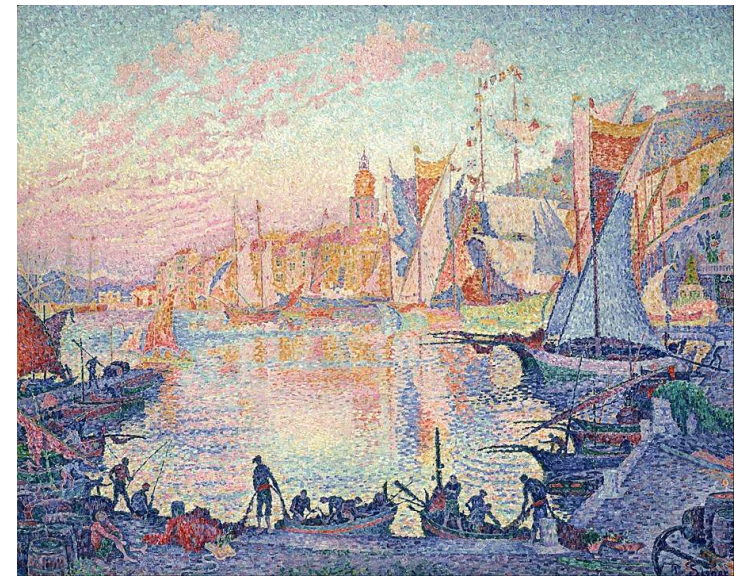
ポール・セザンヌ(2)



セザンヌ 《大水浴図》

ジョルジュ・スーラ/ポール・シニャック(1)

- **スーラ・シニャック**は**科学的な色彩論的アプローチ**を実行したほか、**輪郭や明暗の回復**を果たした。これは個人の感覚に依存していた印象派の問題を解決するための手段だった。
- 彼らに特徴的な技法は**点描**である。これはまだ乾かない状態の絵具同士が混ざり合ってしまうという、筆触分割が持っていた問題を解決し、鮮やかな色彩を生み出した。



シニャック 《サン＝トロペの港》
(国立西洋美術館蔵)

ジョルジュ・スーラ/ポール・シニャック(2)



スーラ 《グランド・ジャット島の日曜日の午後》

ポール・ゴーギャン(1)

- **ゴーギャン**は印象派の「**絵画＝視覚的経験の記録**」という方針に満足できず、独自の画法を生み出した。
- **クロワゾニスム**と呼ばれるこの手法は、**はっきりとした輪郭線と鮮やかな色彩、単純化されたフォルム**が特徴である。
- 彼はこの手法を用いて**現実と非現実の融合した主観的な表現**をし、**象徴主義**の先駆となった。また、この表現は彼が移り住んだタヒチの風俗が影響しており、**非西洋的**なものでもあった。



ゴーギャン 《説教の幻視》

ポール・ゴーギャン(2)



ゴーギャン 《海辺に立つブルターニュの少女たち》
(国立西洋美術館蔵)



ゴーギャン 《タヒチの女（浜辺にて）》

ポール・ゴーギャン(3)

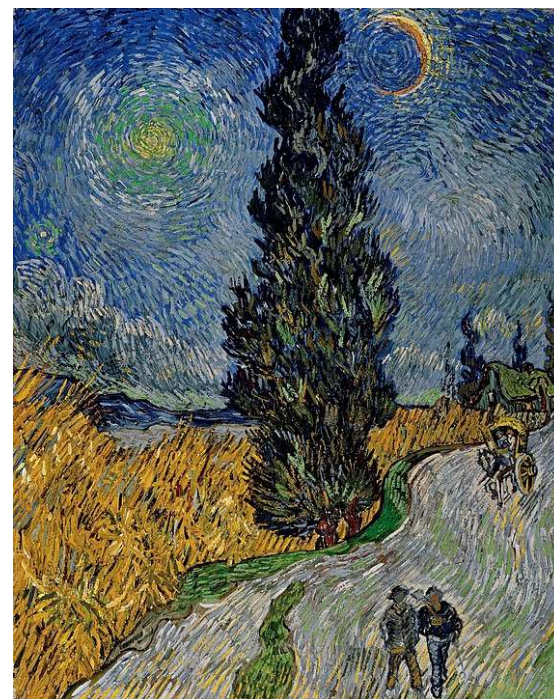


ゴーギャン

《我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか》

フィンセント・ファン・ゴッホ(1)

- オランダ出身の**ゴッホ**は印象派の影響を受けながらもやがて独自の表現を切り開き、**激しい色彩とうねるようなタッチ**で**不安に満ちた激しい内面世界**を表現し続けた。
- この表現は**自然や農民に宗教的価値観を投影**したもので、以後のフォービズムやドイツ表現主義に大きな影響を与えた。
- ゴーギャンと親交が深かったことも有名である。



ゴッホ 《糸杉と星の見える道》

フィンセント・ファン・ゴッホ(2)



ゴッホ 《ひまわり》



ゴッホ 《星月夜》

フィンセント・ファン・ゴッホ(3)



ゴッホ 《日没の種まく人》

本日の内容

- 世界史：世界分割と列強の対立
- 美術史：新印象派・ポスト印象主義
- **美術史：ラファエル前派と唯美主義**
- 美術史：象徴主義
- 美術史：彫刻の革新
- 美術史：応用美術とアール・ヌーヴォー

ラファエル前派と唯美主義(1)

- 後述する象徴主義は印象派と並ぶ一大運動だが、**ラファエル前派**はその先駆である。
- 1848年、**ロセッティ**や**ミレイ**、**ハン****ト**らを中心とする7人の若者が**ラファエル前派兄弟団**と称するグループをロンドンで立ち上げた。
- 彼らはアカデミアで主流であった**ラファエロ**（盛期ルネサンスの画家）以降の**理知的で優美な西洋絵画**を退廃とみなし、初期ルネサンスや北方ルネサンスに由来する**細部まで明瞭な描法と鮮やかな色彩**を取り入れた。



ロセッティ 《魔性のヴィーナス》

ラファエル前派と唯美主義(2)



ミレイ 《オフィーリア》

ラファエル前派と唯美主義(3)

- ラファエル前派は数年で解体したが、1860年以降のイギリスでは彼らの影響を受けた**唯美主義**（**耽美主義**）が盛んになった。
- 唯美主義は、**芸術作品は美しいことだけを目的とすべきだ**という思想で、その背景にはギリシア的な**古典美への回帰**と**日本美術への興味**があった。
- 著名な画家は**ホイッスラー**であり、彼は色彩と形態の組み合わせにより調和のとれた画面を重視した。



ホイッスラー
《白のシンフォニー第1番-白の少女》

本日の内容

- 世界史：世界分割と列強の対立
- 美術史：新印象派・ポスト印象主義
- 美術史：ラファエル前派と唯美主義
- **美術史：象徴主義**
- 美術史：彫刻の革新
- 美術史：応用美術とアール・ヌーヴォー

象徴主義(1)

- 19世紀末になると、当世紀の繁栄を支えてきた**物質主義への懐疑**から、**精神性や神秘主義への関心**が高まった。そして、**象徴主義**と呼ばれる新たな潮流が生み出されることとなる。
- 「象徴」とは「ほかのもので置き換える」こと、つまり明確に表せないことを暗示することを意味する。彼らは視覚的に対象を表す美術においても、伝統的な物語や寓意ではなく、また単なる日常や風景でもない、**より深い精神性を暗示**しようとした。

象徴主義(2)

- したがって、彼らにとって重要なのは主題や様式ではなく**その扱い方**であった。
- 例として、宗教的でない主題に正面観や三連画といった、宗教画で用いられてきた形式を用いて観念性を強調することや、現実と非現実、人物と背景といった異なるものの質感を同化させることなどが行われた。
- これにより、美術は目に見えるものの再現からよりいっそう離れ、**主観的なもの**になっていった。

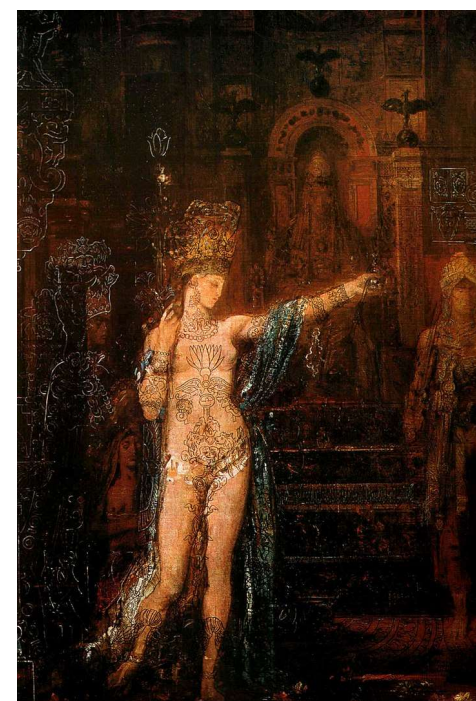
象徴主義(3)

- 象徴主義は特定の団体ではないため、他の様式として紹介した画家も象徴主義画家として扱われることがある。例えば、前述したゴーギャンについても象徴主義的要素が見られる。また、次回扱う世紀末芸術とも重なる部分がある。
- ここでは右の画家を紹介するが、上記のような事情は留意する必要がある。

- ギュスターヴ・モロー
- オディロン・ルドン
- フェルナン・クノップフ

ギュスターヴ・モロー

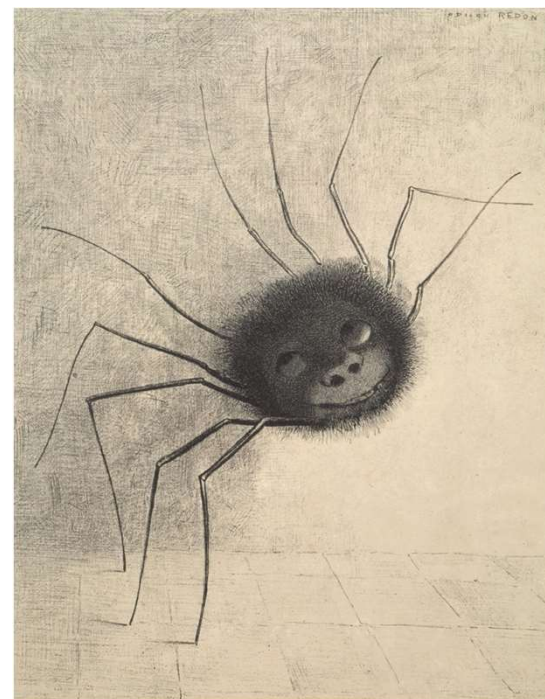
- 前回少し触れた**モロー**だが、彼は象徴主義の画家としても扱われる。
- 彼は聖書や神話を題材にして、**創造と幻想の世界**を多く描いた。
- 《**サロメ**》に代表される**邪悪で魅惑的な女性像（ファム・ファタール）**のイメージは以後の絵画や文学、音楽に大きな影響を与えた。



モロー 《刺青のサロメ》

オディロン・ルドン(1)

- **ルドン**は印象派と同世代でありながら、**独自の無意識化の世界を描写したかのような幻想的世界**を描き続けた。
- 初期は木炭や版画などで**モノクロの奇怪なイメージ**を展開していたが、50歳を過ぎてからは油彩や水彩、パステルを用いて**色鮮やかで華やかな絵画**を描いた。
- 代表作は『**眼=気球**』『**蜘蛛**』『**キュクロプス**』である。



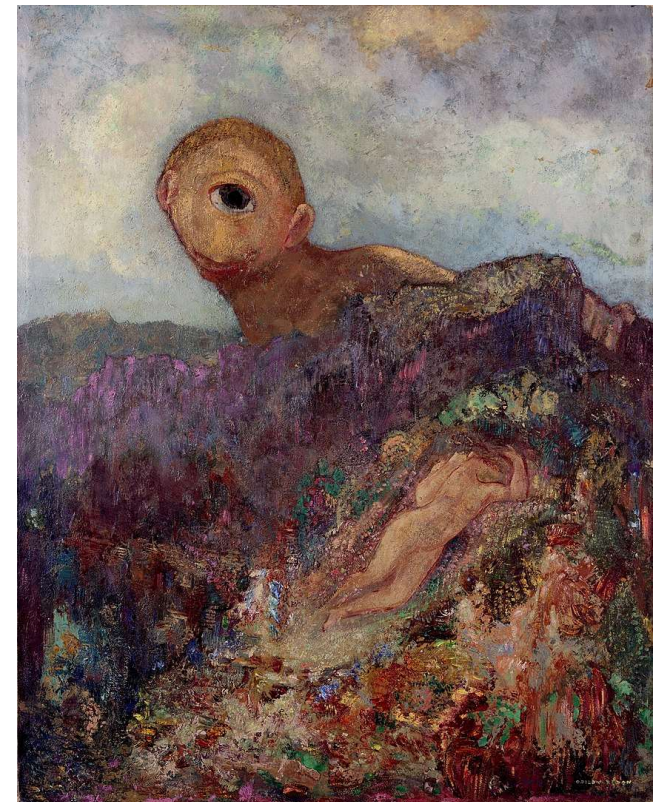
陳寅恪 - 投稿者自身による著作物, CC 表示-継承 4.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=115393075>による

ルドン 《蜘蛛》

オディロン・ルドン(2)



ルドン 《眼＝気球》



ルドン 《キュクロプス》

フェルナン・クノップフ(1)

- **クノップフ**はベルギー出身の画家で、同国の象徴主義における指導者的存在であった。
- 彼は**夢想的で現実と非現実が混在する**独自の絵画様式を確立し、死、性、眠りをモチーフとした絵画を描いた。
- 代表作は『**私は私自身に扉を閉ざす**』『**見捨てられた街**』である。



クノップフ 《見捨てられた街》

フェルナン・クノップフ(2)



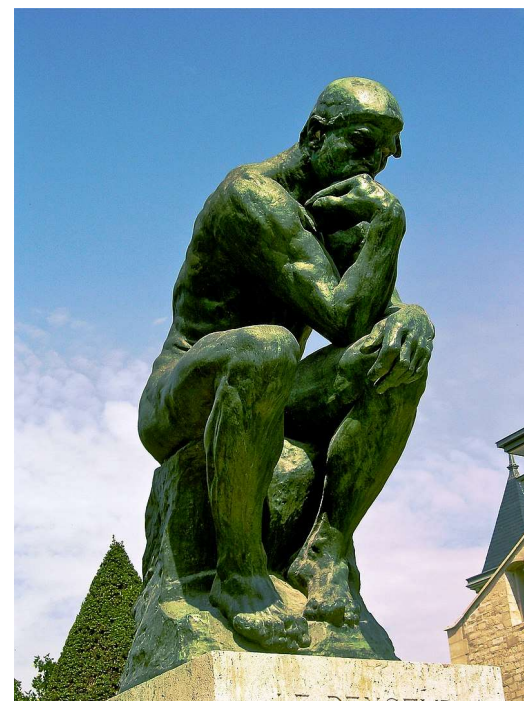
クノップフ 《私には私自身に扉を閉ざす》

本日の内容

- 世界史：世界分割と列強の対立
- 美術史：新印象派・ポスト印象主義
- 美術史：ラファエル前派と唯美主義
- 美術史：象徴主義
- **美術史：彫刻の革新**
- 美術史：応用美術とアール・ヌーヴォー

彫刻の革新

- 絵画に比べ、19世紀の彫刻の変化は緩慢に見える。この理由は、**高価な大理石やブロンズ**を主な素材として用いていた**彫刻はパトロンなしでは成立せず**、公的なモニュメントや建築装飾が求められており、芸術家の自由が制限されていたことである。
- しかしこの時代、新たな彫刻を推し進め、近代彫刻への一步を踏み出した者がいる。それは**ロダン**である。



ロダン 《考える人》

オーギュスト・ロダン

- それまでの彫刻はあくまで神々や神話などステレオタイプなものだったが、**ロダン**は**人間の情念や苦悩、情熱などをドラマティックかつリアルに表現した。**
- しかし、彼は精神性の表現だけではなく造形にも優れており、彫刻があまりにリアルであったためにモデルから直接型取りしたのではないかと疑われることもあった。
- 代表作は『**考える人**』『**地獄の門**』『**カレーの市民**』である。



663highland - 投稿者自身による著作物, CC 表示 2.5,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=663105>による

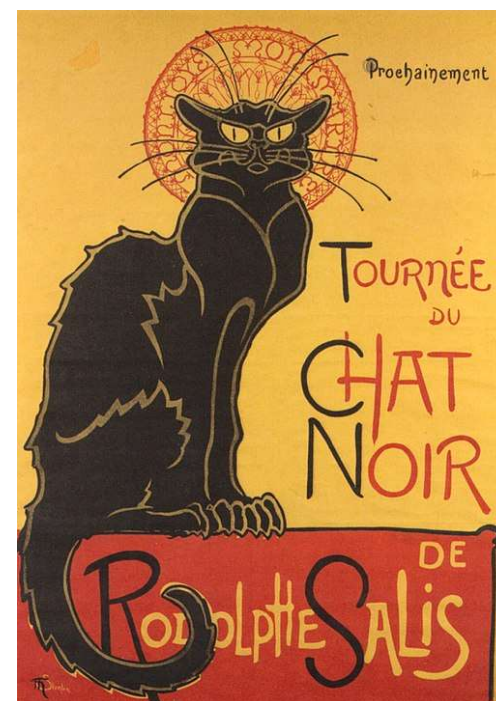
ロダン 《地獄の門》
(国立西洋美術館)

本日の内容

- 世界史：世界分割と列強の対立
- 美術史：新印象派・ポスト印象主義
- 美術史：ラファエル前派と唯美主義
- 美術史：象徴主義
- 美術史：彫刻の革新
- **美術史：応用美術とアール・ヌーヴォー**

応用美術とアール・ヌーヴォー

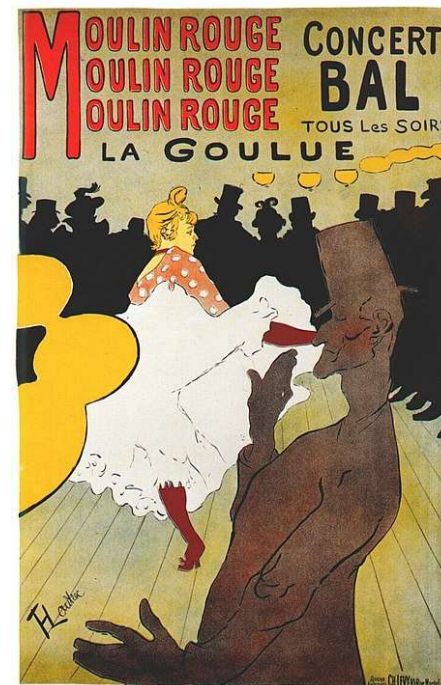
- 19世紀に行われるようになった万国博覧会を契機として、生活に直結する**工芸品に対しても美術的価値観を適用する**ようになる。こうして**応用美術（デザイン）**が美術の一領域として認められるようになった。
- 19世紀末から20世紀初頭にかけて**アール・ヌーヴォー**という美術工芸運動が興った。これは**有機的な曲線**を用いたことが大きな特徴である。



スタンラン 《『黒猫』ポスター》

万国博覧会と応用美術(1)

- 1851年のロンドン万国博覧会を皮切りに、19世紀の後半には各国の主要都市で**万国博覧会**が開催された。
- 万博では各国の工業製品が見た目も含めて比較される。従来**職人や技術者の領域と考えられていた**実用的な産業の生産物だが、これを機に**産業への美術の応用**が意識されるようになる。これが**応用美術**と呼ばれるジャンルの台頭である。

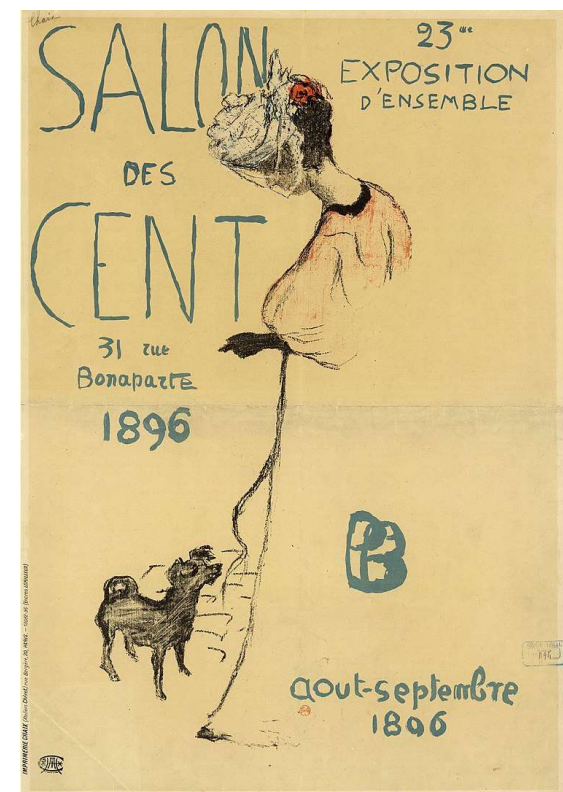


ロートレック

《ポスター『ムーラン・ルージュのラ・グリュ』》

万国博覧会と応用美術(2)

- 応用美術の発展に寄与したのは、**印刷技法の発達**であった。
- この時代に実用化した**多色刷りリトグラフ**は宣伝分野への画家の進出を促し、1880年代の**ジュール・シュレ**や90年代の**ロートレック**、**ミュシャ**、**ボナール**を中心とする**ナビ派**の画家などが**ポスター芸術**を発展させた。

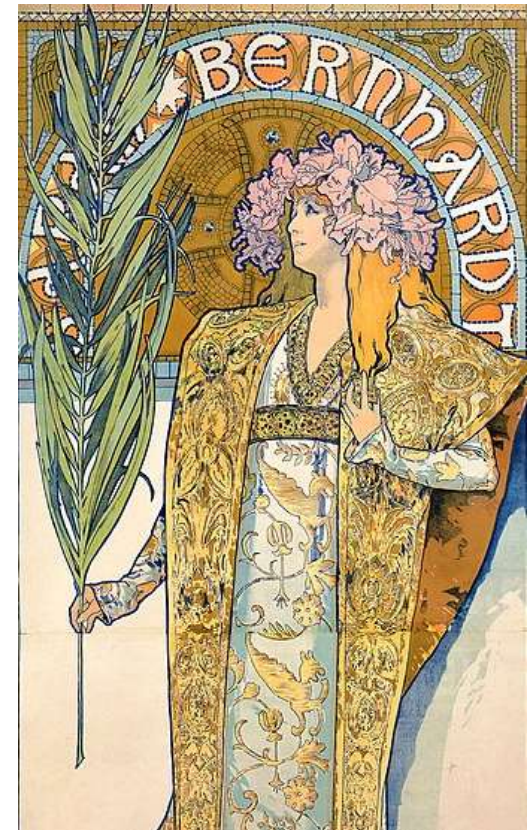


ボナール 《サロン・デ・サンのポスター》

万国博覧会と応用美術(3)



ロートレック 《「ディヴァン・ジャポネ」ポスター》



ミュシャ 《「ジスモンダ」ポスター》
(トリミング)

万国博覧会と応用美術(4)

- また、日常品の美的向上はイギリスでは**アーツ・アンド・クラフツ運動**として具体化した。
- **ウィリアム・モリス**を中心とするこの運動は、職人による丁寧な制作を推進したため製品の価格が高くなりすぎたが、日常品のデザイン性の向上に与えたインパクトは大きく国際的にも大きな影響を持った。
- この運動は後述するアール・ヌーヴォーの先駆けとなった。



モリスがデザインした壁紙

アール・ヌーヴォー(1)

- 1900年という世紀の変わり目から第一次世界大戦までの四半世紀を**ベル・エポック**（**良き時代**）と呼ぶ。ヨーロッパ諸国は不気味な戦乱の危機に目をつむり、つかの間の繁栄と平和を楽しんでいた。
- この時代に起こった美術工芸運動として**アール・ヌーヴォー**がある。これは「新しい芸術」を意味し、**生活空間の全てを統一**したデザインとして提示した。



ミュシャ 《黄道十二宮》

アール・ヌーヴォー(2)

- アール・ヌーヴォーの特徴は花や植物などの有機的モチーフや自由曲線を組み合わせた新奇的なデザインや、鉄やガラスといった当時の新素材を用いたことである。
- 分野としては建築、工芸品、グラフィックデザインなど多岐にわたった。
- 特に有名な芸術家として、『サクラダ・ファミリア』のガウディやガラス工芸のエミール・ガレ、前述したミュシャがいる。



Émile Gallé (French, 1846–1904) - Photograph by Rama, CC BY-SA 2.0 fr, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=4268930>による

エミール・ガレ 《花瓶》

本日のまとめ

- 帝国主義が席卷する中、列強国である**イギリス**と**ドイツ**は対立を深めていった。
- **ポスト印象主義**の画家はあいまいな形態や精神性の無い絵画といった印象派の問題を越えるために各人各様の画法を生み出した。
- 印象派と並ぶ一大運動である**象徴主義**が興った。これは深い精神性を表現しようとするものだった。
- 彫刻分野では**ロダン**が活躍し、精神性・造形性ともに革新的な彫刻を制作した。
- 工業製品の造形性が注目され、**応用美術**（**デザイン**）が生まれた。**アール・ヌーヴォー**は有機的なモチーフを用いた美術工芸運動の一つである。



ゴッホ 《星月夜》

次回の内容

- 二つの大戦を含む20世紀前半の美術は、政治、産業、社会、思想や学術などとも関わりながら、大きく多様な変化を遂げた。
- その中で**フォービズム**や**キュビズム**、**抽象芸術**といった新たな絵画様式が誕生するほか、**デュシャン**のように「芸術」の概念そのものを問いなおす者も現れた。
- 関連ワード
 1. デュシャン『泉』
 2. ピカソ『アヴィニヨンの娘たち』



デュシャン《泉》